

令和3年度札幌国際芸術祭実行委員会事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

1 次回札幌国際芸術祭（SIAF）の開催準備

令和3年7月に、次回SIAFは、中止となったSIAF2020の方針及び実現しようとしていたことをベースに検討する方針とし、降雪等の札幌の特徴がより強く発揮できる冬季を会期とすることを決定した。

また、寒冷な気候や雪、北方圏の文化を題材とした作品やプロジェクトの紹介、現代アートに親しみやすい作品・題材・プログラムを提供し、満足度や質を向上させる取り組みで芸術祭をアップデートさせていくことや次回SIAFのディレクター選考基準を決定した。

令和3年12月には、その選考基準をもとに、次回SIAFディレクターに、札幌市と同じユネスコ創造都市ネットワーク・メディアアーツ都市であるリンツ市で活躍する、アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表 小川 秀明 氏を選任した。

2 広報プロモーション

次回 SIAF ディレクター決定のプレスリリースとタイミングを合わせて盛り上げを図るため、次回 SIAF を告知する CM 映像、ビジュアルを制作し、1月下旬～2月末にかけて放映した。

項目	概要
街頭ビジョンでの CM 映像/ビジュアル放映	放映場所：札幌駅前ビジョン、メガ・ビジョン4プラ、札幌 PARCO ビジョン、チカホ、各区役所戸籍住民課、市電ポラリス車内、西2丁目地下歩道（エコチルまちビジョン）、札幌ファクトリーアトリウムビジョン、JR タワーピラービジョン/CROSS/EAST、JR タワーエキサイトビジョン、オーロラビジョン、市電停留所、サッポロスマイル PR コーナー
CM 映像を活用した SNS 広告の実施	Twitter、Facebook、Instagram に動画広告を出稿 広告表示回数合計 ・Twitter：約 72 万回 ・Facebook/Instagram：約 36 万 5 千回



次回 SIAF 開催の告知 CM 映像



札幌駅前ビジョンにて CM が放映される様子

3 SIAF 普及事業

(1) SIAF ふむふむシリーズ

SIAF の継続的な情報発信を行い、来場者目線に立ったプログラム展開を継続的に実施するとともに、SIAF と市内主要文化施設との連携及び情報交換を行うため、以下の3つのステップでプログラムを展開した。

- ①知 ろ う：アーティストや担当学芸員へのインタビュー動画等を通じて、アーティストや作品について事前に知る。
- ②体験しよう：作品解説ガイドブック等を通じて展覧会や作品をより深く体験する。
- ③共有しよう：オンラインイベント等を通じて、感想や考えを他者と共有する。

連携・協力	展覧会名/会期	プログラム概要 (一部)
<ul style="list-style-type: none"> 札幌市民交流プラザ (札幌文化芸術交流センターSCARTS) 	高嶺格「歓迎されざる者～北海道バージョン」 8/27～8/29 (※緊急事態宣言により会期短縮：3日間)	<ul style="list-style-type: none"> アーティスト解説フライヤー制作・配布 (A5 片面、348部) キュレーター等へのインタビュー動画 YouTube 配信 (519回再生)
<ul style="list-style-type: none"> 北海道立近代美術館 公益財団法人道銀文化財団 道内アーティスト (25名※物故作家含む) 	道銀芸術文化奨励賞 受賞作家展 9/15～11/7	<ul style="list-style-type: none"> 本展の30年を振り返るガイドブック制作・配布 (A4変形30頁、1,000部+400部増刷) 出展作家や担当学芸員へのインタビュー動画 YouTube 配信 (4,562回再生)
<ul style="list-style-type: none"> モエレ沼公園 (公益財団法人札幌市公園緑化協会) 道内アーティスト (1名) 	AKARI : 無重力のパラレル 1/8～3/6	<ul style="list-style-type: none"> Q&Aリーフレット制作・配布 (A4両面、1,000部) アーティストや担当学芸員へのインタビュー動画 YouTube 配信等 (302回再生)
<ul style="list-style-type: none"> 芸術の森美術館 本郷新記念札幌彫刻美術館 道内アーティスト (6名※物故作家含む) 	きみのみかた みんなのみかた 1/22～3/13	<ul style="list-style-type: none"> 作品解説ガイドブック制作・配布 (A4変形22頁、3,000部) 担当学芸員へのインタビュー動画 YouTube 配信等 (271回再生) 担当学芸員によるオンラインギャラリートツアー(ゲイモリナイトミュージアム、2/26・27実施、参加回線数176名)



道銀芸術文化奨励賞の30年を振り返る特別ガイドブック



ゲイモリナイトミュージアム (オンライン鑑賞ツアー)

(2) SIAF プレイベント上映会

次回 SIAF のディレクターにアルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表の小川秀明氏が就任したことを記念し、NHK 札幌拠点放送局との共催により、ディレクターメッセージ及びアルスエレクトロニカのコンピューターアニメーション上映イベントを開催した。

タイトル：世界最先端のアニメーションに出会う！～アルスエレクトロニカ・アニメーションフェスティバル 2020・オン・ツアー in NHK 札幌

日 時：2/23①11 時～12 時 45 分／②14 時 30 分～16 時 15 分

場 所：NHK 札幌放送局 8K 公開スタジオ

参加者数：88 人(定員を超える申込有)

(3) 展示イベント「さっぽろアートステージ 2021」

さっぽろアートステージ 2021 に PR ブースを出展し、SIAF 普及事業や SIAF ラボのプロジェクトに関する映像等を放映した。

日 時：11/6～11/23 (18 日間)

場 所：札幌駅前通地下歩行空間北 1 条イベントスペース

来場者：561,195 人(主催者発表)

4 SIAF ラウンジの活用

(1) SIAF ラウンジにおける情報発信

札幌市資料館内にある「SIAF ラウンジ」を活用し、来場者に対し、SIAF に関するアーカイブ（冊子、写真、動画等の記録資料）を提供した。

来場者数：2,041 人

(2) SIAF ラウンジオンライン

SIAF ファンやアートファンとの継続的な関係性を構築するため、オンライン会議システム Zoom を活用したオンラインサロン「SIAF ラウンジオンライン」を毎月 1 回開催した。

参加者数：延べ 173 人

5 SIAF ラボの活動

(1) 札幌・北海道を舞台とした研究開発プロジェクト

北海道の自然環境（寒冷地・海等）や札幌の都市機能（除排雪等）をテーマに、独自のデータ取得装置を調査・研究の上開発し、それにより取得したデータをメディアアートとして視覚化していくプロジェクトを実施した。

項 目	概 要	再生回数等
ディープウォータープロジェクト	支笏湖最深部でのデータ取得を目指すプロジェクト。研究開発の過程やドキュメント映像、データロガーの仕様等を公開。	ウェブサイト 109PV YouTube249 再生

除雪彫刻、夏の帰省	除雪跡を 3D スキャンし彫刻に見立てた作品「除雪彫刻」を、雪のない盛夏にデータが取得された場所に据え置くプロジェクト。映像記録をオンラインで公開。	ウェブサイト 626PV
北海道リサーチプロジェクト「サイド」	北海道を舞台とした長期的なリサーチを行う新プロジェクト。外部のアーティストをメンバーに招聘し、キックオフイベント（下記（3）参照）を実施したほか、ウェブサイトを開設。	ウェブサイト 403PV



左：支笏湖での研究開発の様子

右：独自開発したデータロガー

「除雪彫刻、夏の帰省」展示の様子

(2) SCARTS×SIAF ラボ 冬の展覧会 2022

札幌の除排雪に関するリサーチにより得られたデータを用いたインスタレーション等 4 作品を展示したほか、オンラインさっぽろ雪まつり 2022 との連携事業として、ドローン空撮による展覧会ギャラリーツアー映像を制作・配信した。

会 期：2/5～2/20(16 日間)

場 所：札幌文化芸術交流センターSCARTS モール A、B、SCARTS コート

来場者：1,632 人

(3) トークイベント

道外出身者を交え、北海道での文化活動に関する対談を行ったほか、新プロジェクト「サイド」発足に関するトークイベントを行った。

タイトル：都市と自然と R&D

日 時：2/13 14 時～17 時

場 所：札幌文化芸術交流センターSCARTS モール A、B 及びオンライン配信

参 加 者：実地 18 人、オンライン視聴 29 人、アーカイブ 444 再生

(4) アートエンジニアリングスクール

メディアアーツ都市札幌の次世代を担う展覧会エンジニア等のメディアアート人材を育成するため、レクチャー動画やアート・エンジニアインタビュー動画の配信等を主にオンラインで開催した。

項目	概要	再生回数等
アートエンジニアリングファイル	国内外で活躍するエンジニアへのインタビュー映像配信プログラムを制作、YouTube 配信。 出演者：濱 哲史、クラレンス・ン、イトウユウヤ、中路景暁、田中みゆき	YouTube 604 再生
バックステージ・パス	メディアアート等、最先端の制作現場を見学するオンライン授業。 4/4 山口情報芸術センターYCAM 9/4 札幌文化芸術交流センターSCARTS 11/13 NTT インターコミュニケーション・センター	参加者 合計 51 人

6 人材の育成

(1) SIAF 部

次回 SIAF に向けて、札幌のアートシーンや SIAF をより深く知り、一緒に盛り上げていくための「SIAF 部」部員を新規に公募した。(新規入部 21 人)

合計 24 名の部員に対し、SIAF 事務局スタッフによる現代アートに関するレクチャーや、展覧会鑑賞サポートプログラムなどの人材育成を行った。

※ 新型コロナウイルスに係る行動制限がある時期はオンラインで開催。

※ 年間参加者のべ 124 名。

(2) アートエンジニアリングスクール【再掲】

5 SIAF ラボの活動(4)参照